

# 菅政権とコロナ危機

政策研究大学院大学教授

竹<sup>たけ</sup>  
中<sup>なか</sup>  
治<sup>はる</sup>  
堅<sup>かた</sup>

- \*首相の権限はどう強化されたのか
- \*55年体制以降の首相権限の変化
- \*2001年以降肥大化した内閣官房機能
- \*不徹底なコロナ対策生む権限の分散状況
- \*集権化と分散化の矛盾
- \*圧倒的に不足している検査のキャパシティ
- \*首相の方針が貫徹出来ない背景
- \*差が大きい区長レベルの実行力
- \*依然重視すべき感染症対策の基本方針
- \*医療体制の問題はどこにあったのか



**柴生田** それでは開会いたします。（拍手）

本日は、政策研究大学院大学の竹中先生においでいただきました。8年ぶりの登場ということでございます。

先生は1971年生まれで、東京大学卒業後、大蔵省に入られ、それからスタンフォード大学で博士号を取得され、その後、現在の政策研究大学院大学におられます。

今日は「菅政権とコロナ危機」ということで、後手後手と言われる菅政権の対応、それから、コロナに関するさまざまな医療問題とか、いろんな制度の問題もございます。われわれがどう考えたらいいかということについて、お話を伺いたいと思います。

それでは竹中先生、よろしくお願いいたします

す。

**首相の権限はどう強化されたのか**

**竹中** ただいまご紹介にあずかりました政策研究大学院大学におります、日本政治を研究しております竹中と申します。今日は、経済倶楽部様にお招きくださりましてありがとうございます。

私は、もともと日本の権力構造や政策決定過程について研究しています。そのほかに民主主義のことや対外政策、安全保障のことについても研究しております。コロナが始まる前は首相の権力がどういうふうが強まってきたのかということの研究してきました。コロナが始まってしまったので、これは重大な危機であると思います、